

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校

1. 確かな学力と課題解決能力（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. 豊かな人間性（自分だけでなく他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校
3. 地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
4. 次世代リーダー（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領を見据えた教育課程の編成と授業の充実を図る。

- 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。
- 習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。
- 専門コースの授業内容の点検改善を図る。

※授業アンケート（2回）の学校平均 3.24（H30:3.18、R1:3.17、R2:3.23）をめざす。

2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性をはぐくむ

(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。

- 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。
- 生徒会などと連携した朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。
- 「心の教育」を充実させ、ルール、マナーの遵守を求めていく。

(2) 生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす

- 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。

(3) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。

- 身近な事柄を通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。

※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合 78%以上（H30:84.9%、R1:76.2%、R2:76.7%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合 65%以上（H30:62.2%、R1:59.4%、R2:60.0%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合 75%以上（H30:74.7%、R1:69.4%、R2:73.5%）をめざす。

3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る

(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。

- 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、パソコン検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
- 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。

※進路決定者を97%以上（R1:96.0%、H30:96.6%、R2:94.5%）に増加させる。

4 地域と連携した魅力のある学校づくり

(1) 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

- 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。
- PTAやNPO等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。

※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合 75%以上（H30:73.2%、R1:70.6%、R2:81.6%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすく楽しい」(生徒) 69.9% (昨年 71.2%) は若干下がった。特に3年生が 64.5%と低く、進学をめざした授業のほか基礎学力の充実のための課題や補習等の支援が必要である。 「授業・補習・講習などは生徒の進路保障・自己実現につながっている」(保護者) 75.3% (昨年 72.7%) と増加。 「ICTを活用したわかりやすい授業が多い」(生徒) 87.1% (昨年 66.7%)、 「ICTを活用したわかりやすい授業をめざしている」(教員) 89.5% (昨年 66.7%) とともに大幅に増加。今後も ICTを活用したわかりやすい授業の取り組みを進めたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生は協力して生徒指導にあたっている」(生徒) 85.2% (昨年 75.1%)、 「学校はあいさつすることを働きかけている」(生徒) 83.1% (昨年 76.7%) とともに増加。学校全体で統一された生徒指導が評価されている。 「部活動に参加している (していた)」(生徒) 53.5% (昨年 58.9%) は 	<p>第1回（7月2日）</p> <p>○R3年度学校経営計画と取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校づくりを一層推進し、大阪市内へ向かって通う高校を選ぶ傾向がある地域の中学生を引き付けることが重要。 コロナの状況が改善すれば、出前授業や生徒が地域に出る活動、部活動や体験授業などで中学生を高校へ呼んでの活動などを通じた交流と広報をさらに進めることが大切。 <p>第2回（11月26日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教室にプロジェクターが設置されている恵まれた学習環境を生かすためには、教員のICT活用能力のバラつきをなくすことも重要である。 大学や職場の見学、実習体験は生徒がキャリアデザインを描くうえで非常に大切。今後も取り組みを一層進めるべき。 <p>第3回（2月22日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回協議会で、サービスマーケティングの授業で生徒が自分たちで発表や意見を取りまとめている様子を見た。どの生徒もいきいきとした表情で楽しそうに授業に参加していた。この様子を中学生が見たら、この高校で学びたいと思うのでは。中学校の先生に授

<p>低下。コロナの影響により4月当初から部活動が制限され、体験入部などが実施できず1年生の入部率が低くなった。体験入部期間の延長や広報の強化など、部活動加入率を上げるための工夫が必要である。</p> <p>・「学校は進路等の情報を知らせてくれる」(生徒) 82.5% (昨年 79.5%)、「外部の人から授業を受けたり話を聞く機会がある」(生徒) 83.6% (昨年 81.6%) とともに増加。懐風館セミナーや分野別説明会の効果が表れている。今後も生徒のニーズに応じた進路指導の取り組みを進めていく。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」(教員) 71.1% (新規) ICTを活用した働き方改革をさらに進め、業務負担の軽減を推進する。</p> <p>・「学校HP、保護者宛て文書等は学校の教育活動や情報を得るうえで役に立っている」(保護者) 79.9% (昨年 79.2%) は微増。今年度の学校HPの情報発信量は昨年より増えたが、今後も臨時休校等の緊急連絡が増える傾向にあるので、さらなる周知が必要である。</p>	<p>業の様子を見てもらうのも広報の一つと考える。</p> <p>・今年度も新型コロナウイルス感染症に学校現場が翻弄された一年であった。学校行事等も制限された状況の中で生徒たちはよく頑張っていたと思う。今後も、生徒たちが可能な限りコロナ禍の前の学校生活に戻れるよう、教育活動や行事の実施形態を含めた工夫を進めてもらいたい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組を推進する。	<p>(1) 教師の指導力の向上を図る。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり①から④に組織的に取り組む</p> <p>①授業改善 年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する ※授業アンケートの実施とその分析及び課題解決</p> <p>②校内教職員研修の充実 ICT活用研修、進路指導研修、経験の少ない教員に対する経験の豊かな教員による研修</p> <p>③専門コースの充実 ・外部機関と連携した体験学習やグループワークの工夫 ※専門コース科目「サービスラーニング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善</p> <p>④働き方改革の促進 ※授業のICT活用とともに、校務のICT化をはかる。</p>	<p>(1)</p> <p>①授業アンケートによる肯定的評価学校平均 83%以上 [2回平均 81.3%] ・学校教育自己診断「先生は、他の先生の授業を見学に来る」生徒の割合今年度以上[51.6%] ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の割合 75%以上 [71.2%]</p> <p>②校内研修の実施回数 7回以上 [7回実施]</p> <p>③学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の割合今年度以上[72.0%]</p> <p>④ICT活用率の向上 学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」[66.7%] ・ICT活用率の向上(学校教育自己診断の項目を一部修正して、検証・分析する)</p>	<p>(1)</p> <p>①授業アンケート結果をもとに、独自の分析資料を作成。肯定的評価2回平均 84.5% (○) 学校教育自己診断 ・「先生は、他の先生の授業を見学に来る」52.8%。次年度は相互授業見学をさらに進めたい。(○) ・「授業はわかりやすい」生徒の割合は69.6%にとどまった。次年度は校内研修や外部研修を活用するとともに、生徒理解を深め「わかりやすい授業」への取組を進めたい。(△)</p> <p>②校内教職員研修は10回実施。(人権2、生徒指導1、ICT4、観点別評価2、保健・救急1) 課題に即した研修を実施することができた。(◎)</p> <p>③「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は72.1%。サービスラーニング、音楽探求、コミュニケーション英語などの授業においてプレゼンテーションを多く取り入れていた。(○)</p> <p>④「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」87.1%。校内研修や研究授業を通じてICTの活用率が向上した。(◎) ・今後の評価指標とするため、教員の学校教育自己診断に項目「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」を追加した。[今年度 71.1%]</p>
2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし豊かな人間性をはぐくむ	(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成させる	<p>(1) 規範意識の醸成 ①あいさつの励行</p> <p>②個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導 ※毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間(各1週間)を実施。 ※遅刻生徒については、放課後の指導など、生徒指導部を中心に、組織的に指導する。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実 隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。</p> <p>(3) あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p>	<p>(1)</p> <p>①学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合の向上 [76.7%]</p> <p>②生徒の年間遅刻総数減らす [3200]</p> <p>(2) 学校教育自己診断における「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合の向上[60.0%]</p> <p>(3) 学校教育自己診断で「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合の向上[72.2%]</p>	<p>(1)</p> <p>①「挨拶をする」生徒の割合 83.1%。登校時に門に立ち、挨拶しながら生徒を迎える教員が増加した。(◎) ②年間遅刻数は3640。引き続き、個別の指導のほか、「おはよう運動」やあいさつ週間の実施など、遅刻を減らす取組を進めていく。(×)</p> <p>(2) 「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合 61.4%。教育相談委員会を中心に、生徒に寄り添い、少しの変化も見逃さない体制づくりをさらに推進していく。(○)</p> <p>(3) 「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合 75.9%。外部講師を招いての講演会やHRを通じて、いじめやSNS、コロナ等に関わる人権問題に触れ、生徒の人権意識の高揚を図ることができた。(○)</p>

府立懐風館高等学校

<p>3 「志」や「夢」を 自己実現の達成を 図る</p>	<p>(1) 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現の達成 ①効果的な進路関係行事の実施計画 ※進路体験行事、懐風館セミナー(大学等の出前講義)等の実施 ②補習や進学講習などの機会を充実させる ※教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める</p>	<p>(1) ①学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の割合の向上。[79.5%] ②学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上[37%]</p>	<p>(1) ①「進路についての情報提供がされている」生徒の割合 82.5%。バスツアーによる大学見学会、大学等の出前授業や職業体験を行う懐風館セミナーなど、生徒が自らの進路を考え、切り拓く取組みを今後も進めていく。(○) ②「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 27.9%。昨年度から導入した教育産業の教材を活用する生徒が増えたことが一因と考えるが、今後も補習や講習による学力向上に取り組む。(△)</p>
<p>4 地域と連携した 魅力のある学校 づくり</p>	<p>(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 (2) 地域と連携した取組みの推進</p>	<p>(1) 学校の様々な取組みを、中学生や保護者に周知する ※中学校訪問や学校説明会、体験入学を充実させる (2) 地域と連携した外部講師の活用や福祉ボランティア等の体験活動を実施する</p>	<p>(1) 中学校訪問回数や説明会等への参加者数を増やす[参加者数 259名] (2) 地域と連携した体験活動の参加生徒数を増やす[-]</p>	<p>(1) 学校説明会(本校主催)参加者数 280名。2月に学校説明会を追加した。また、羽曳野市に依頼し、市の広報誌に学校紹介を2回掲載。(◎) (2) コロナ禍の影響で体験活動は実施できなかった。サービスラーニングの授業で作成したおもちゃ等を地元の保育園に贈るなど、可能な範囲で交流は継続している。[-]</p>